

潮騒通信「どっこい生きてます！」

TV番組から支援の在り方を教えられる

過日、夕食時にTVを見ていたら日本の井戸掘りと左官の2職人がアフリカ・ガーナの貧しい農村に赴き、水不足や学校給食の問題解決に貢献する特番が放送されていました。どうせ安易に感動を押し付けるバラエティー番組だろうと見ていたら、よくある“受け狙い”番組ではありません。押しつけがましい支援ではなく、その土地の自然を害することなく、あくまで現地にあるものを使い、日本の伝統的な技術を伝えようとする優れた内容でした。

その村は井戸がないために幼い子供たちが朝晩、1時間もかけて水汲みに行き、衛生状態も良くありません。小学校には調理場はもちろん、かまどがなく、満足に給食を子供たちに提供できないでいます。そこで2人の職人がボランティアで奮起します。井戸掘りは掘削機械に頼らず、日本の伝統的な上総（かずさ）掘り工法を駆使し、職人が村にあるもので村人と一緒に井戸を掘り当てます。ベテラン左官職人も村の土を使ってかまどを完成させ、さらには壁のない納屋のような校舎に涼しい土壁を手本として作り、いずれも村人が自分たちで真似して修復できるように技術を伝えていました。

私はこれが本当の支援の在り方ではないかと、「我が意を得たり」の心境でした。よくODA（政府開発援助）などで農業振興のために最先端のトラクターや機械類を途上国に贈りますが、いったん故障すれば現地の人たちでは直せません。放置されたままとなり、せっかくの高額な援助が実を結ばないケースを伝え聞きます。先進国の一方的な思い込みや発想から高度な完成品を贈るより、その国の経済状態や生活事情に合わせ、手に職を付けるような形で技術を伝え、壊れたら自分たちの手で直せるようなシンプルさと耐久性に富む援助のスタイルが求められることを番組は教えていました。

私は、これこそが当事者主義に立脚した支援活動の在り方だと思います。頭で考えた援助ではなく、現地に出向いて相手のニーズを肌で感じ、生活実態に即した援助こそが本物として生き、援助される側の自立につながります。こちら側が「良かれ！」と善意でした支援が、実は相手には余計なお世話だったり、まったくの的外れなことは支援の「落とし穴」として結構あるようです。それだけに支援・被支援の関係では、相互信頼に基づく十分なコミュニケーションが求められます。同じように依存症の世界でも、啓蒙的な上から目線での支援には注意が必要です。生意気なようですが、被援助者が本当のところ何を感じているかを汲み取ってほしいのです。安易な同情はもちろん、目先の実績や結果に囚われず、長い目で私たちの自立を促すような辛抱強い支援の在り方を模索して頂きたいものです。（施設長 栗原 豊）

SITC

SHIOSAI JOB TRAINING CENTER

2013年

4月号 一部100円

Contents

- P1 支援の在り方について
- P2 城山公園で恒例花見
- P3 花見感想&写真特集
- P4 新顔登場・詩を作ろう
- P5 JMAC武澤氏が講演
- P6 青パパイヤ定植直伝
- P7 次世代スタッフ研修会
- P8 近藤氏インタビュー12
- P9 全国受刑者からの便り
- P10 入寮者しおさい俳壇1
- P11 今月の秀逸句特選句
- P12 行事予定&献金献品



今年の花見は鹿島城山公園の桜を楽しみました＝記事2～3頁

桜の名所で俳句作り & お弁当に舌鼓！

◆城山公園で潮騒恒例・桜の花見イベント◆



潮騒JTC春の恒例行事となった「桜の花見イベント」が4月1日、鹿島城山公園（鹿嶋市城山）で開かれ、入寮者約80人が例年より早めに開花したサクラ（ソメイヨシノ）を楽しみました。同公園は桜の名所として知られ、鹿嶋市民にとって人気のお花見スポットの一つ。この日も多くの市民でにぎわっていました。

仲間たちは公園内の一角を確保してブルーシートを敷いて車座になりながら、「桜を見ながらの俳句作り」に挑戦。男性5班と女性1班の計6班に分かれて俳句作りに励みました。それぞれが1句をひねり、班内で出来上がった作品を読み上げて優秀作を1句選び出し、そこから各班の優秀作を読み上げて一番いい俳句を選びました。

仲間たちは思い思いの俳句を作りましたが、中には「花より団子」ならぬ「花よりタバコ」といった感じで喫煙タイムが待ち遠しい様子の仲間もいましたが、そこはご愛敬。俳句作りも何とか終わり、桜の下で記念写真をパチリ。そして待ちかねた昼食となりました。うららかな春の日差しを浴びながら、ゆったりした気分で食べるお弁当は、普段と違いひとときわおいしかった様子でした。

このところ潮騒には各方面の窓口から入寮要請が増え、できる限り応えています、受け入れもほぼ限界に近い状態です。こうした野外活動では移動などでスタッフの苦労が多くなっています。（崎）

【鹿島城山公園】JR鹿島神宮駅そばにある旧鹿島城跡の公園。遠くに北浦や筑波山が望める。園内には約350本のソメイヨシノのほかシダレザクラなどが植えられ、桜の名所として知られる。毎年、桜の開花時期には「かしま桜まつり」が開かれる。公園の内部や周辺には鹿島城の遺構が残っており、往時を偲ばせる。



★桜を楽しみながらのお弁当の味は格別でした！★

昨年は古河市まで出掛けて花桃を楽しみましたが、今年は近場の名所で桜の花見でした。デイケア（潮騒アディクションセンター）から歩いて行ける距離で、とても気持ちがよかったです。あまりデイケア周辺を歩いたことがなかったから新鮮でした。お花見では今年も俳句作りに挑み、私も2句浮かんで楽しかったです。まだ7分咲きの桜もあったけど、のどかな春の陽光を浴びながらゆったりした気分で、桜の花吹雪をかぶりながら散歩しました。もっとも私の場合、“花より団子”でお弁当やお菓子に目が向きました。花見をしながら野外で食べるお弁当の味は格別で、好物のエピフライがとてもおいしかったです。花見にはお酒がつきものだけど、私たちアディクトにはそれが叶いません。ちょっぴり寂しい？と思われるかもしれませんが、多くの潮騒仲間たちと桜を楽しめたことが明日への希望と回復へとつながります。今年は「本当に花見をしたなあ」という実感をえました。花見でなくても、健康づくりを兼ねてこの公園を散歩コースにするのも悪くないと思います。また来年も鹿島城山公園で花見をしたいです。（ち～な）



「栗原施設長による潮騒への導きに感謝！」

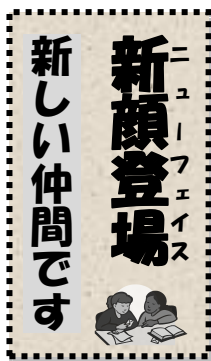
私はこの3月25日に北海道の刑務所を仮出所しました。栗原施設長には「遠方のために迎えは大変ですから」と固辞したのですが、「やる気のある仲間のために手助けしたい」との言葉に甘えて、約束通り迎えに来てもらいました。帰りの飛行機の中で多くの助言を頂き、「この人なら信用できる。すべてを任せ、自分の生き方をゆだねて、生まれ変わるものなら自分を変えてみよう」と決心しました。

私は今回で6回目の懲役で、「どうせもう自分に残された人生は同じことの繰り返しだろう」と残りの人生を諦めかけていました。そんな獄中での捨て鉢な私に、栗原施設長は「人生はやり直せる」「自己改善の努力を」と何度も励ましの手紙をくれました。その言葉通り、今回やり直しのチャンスを与えてくれたのです。感謝の言葉しかありません。栗原施設長の気持ちは裏切るまいと心に固く誓いました。

私は今まで多くの人を裏切り、信用をすべて失くしました。もはや迷惑を掛けた方々には一生を掛けても償うことができない罪深い存在です。でも栗原施設長

の助言に従い、私と同じ悩みに苦しんでいる仲間達のためになら、自分なりに精いっぱいメッセージを伝えることができます。たとえそれが一人だけだったとしても、私の意見（体験談）を伝えることができるなら、それがもしその人の希望の力になるなら、私の否定すべき業の深い人生が意味あるものとして役立つことができます。

まだ潮騒につながって日が浅い私ですが、仲間の皆さんの団結や絆の強さには感動しています。この環境なら私のような半端者でも、必ずや人生をやり直せるという確信を持ちつつあります。何よりも栗原施設長の前向きな姿勢をすぐ側で実感でき、学べる不思議な運命の導きに驚いています。入寮したての新参者の私ですが、潮騒JTCが世の中に大きく成長できるよう、微力ながらも施設長の力になり、スタッフを目指して仲間の皆さんと一緒に頑張っていく所存です。焦らず地道に更生の道を歩み、新たな人生をまっとうに生きることによって、今までの償いが少しでもできるよう努力し、精進していく決意です。どうか温かく見守ってください。(コウジ)



=自由詩人、白田美鶴さんと詩を作ろう=

●七転び八起き
反省という言葉をもの胎内に置き忘れこの世の旅も六十路と半ば魂の深みに足とられ心の傷みに耐えきれずもがくほどにはまり込む自由の翼も動かないこんな私を見捨てない優しく見守る師の姿

鳥が山を愛するように魚が河を愛するようにこんな私を見捨てない優しく見守る師の姿

人生の坂道で転んだことは恥ずかしいことではないのだよ起き上がれないことが恥ずかしいことと教えてくれる優しく見守る師のことば

私の心にダルマを置いて七転び八起きの昨日今日人生の花を咲かせたいそして豊かに実のれと念ずる心こんな私を励まし続けてくれる山河のような恩師に心を込めて「ありがとう」と伝えたい

鳩になつて今すぐに(原章三郎さん 詩)

【解説】詩の前後のバランスやリズム、イメージの言語化をできる限りよい形にして伝えたいと考え、原詩に少し手を加えさせて頂きました。詩は薬のようなところがあり、万人には効かないのですが、同じ境遇にある人には、そのことばが心に効くのです。原さんの詩には多くの人々の心に効く（届く）力を感じます。原さんご自身の過去から目をはなさずに、しっかりと詩にされています。題名は今後の生き方の前向きさを適確に表しています。これは生きる上で大切な精神であり、詩の中にもそのまま入れて、人生のテーマがより明確になるようにしました。この詩のテーマとなるポイントは恩師とのゆるぎない信頼関係です。そのため「師」のフレーズをリフレーン（繰り返し）することで、テンポやリズムを高めました。ほかにも前後の流れやイメージに合わせて表現を変えた部分がありますが、「鳥が山を愛するように／魚が川を愛するように」は見事なたとえです。この二行により、原さんと恩師との深い信頼関係が余すところなく語られています。詩はことばの表現ですから、より強く読者の心に届ける工夫が必要です。原さんの「ありがとう」の心の思いを鳩に象徴的に重ね合わせるエンディングにしてみました。(白田美鶴)

「夢も何もない人に就労支援はできない」

≡ジャパンマックGMの武澤次郎氏が講演≡

潮騒JTCの第2回ファイザープロジェクト就労支援実践講座が4月5日、鹿嶋市宮中のまちづくり市民センターで開かれ、NPO法人ジャパンマック(J-MAC)の武澤次郎ゼネラルマネージャーが「マックが取り組む就労支援」をテーマに講演してくれました。冒頭、武澤氏は「入所者が多様になって、単純なアルコール依存だけではなく、非常に就職が難しい。コンビニのアルバイトも様々な機械操作ができないと就職できない」と、依存症者がアルバイトも含め就職が非常に困難な現状を説明しながらも、ジャパンマックが2010年から始めた「マック就労支援事業」で就労支援を行い、登録者17人中8人が就職に成功した事例を報告しました。

●就労への留意点

武澤氏は「働けない人はいない」と断言。障害者の就職を引きあいに「東京では障害者のサポートセンターが付いているほうが圧倒的に就職率が高い。万一何があっても(サポートセンターが)とんできてサポートする」と述べ、障害者の雇用を行っている大手アパレル企業の事例を出し「障害者を1店舗で1人は雇う。バックヤードで服を畳んだりする作業をする。どう対応すればいいかわかれば雇う」と説明。さらに約50回も就職面接を受けて官公庁の清掃の仕事を得た依存症者の例を挙げ、▽就職する際にはサポートをする人が必要▽12ステップグループへの参加▽おおむね1年以上「依存するもの」を使っていないこと—の留意点を強調しました。

実践的なアドバイスとして▽同時に10カ所ほど応募する。一般の人でも10~20ケースを受けるのは当たり前▽1回で一発で決めようと思わない▽履歴書の写真が「ノーネクタイ」では採用しないので、それなりの格好で写真撮影を—などと助言。「障害者手帳を取れる人は有利。大企業では(法律で)2%以上障害者を雇わないといけない」と話しました。

最近“バッシング”の対象になっている生活保護制

度に話が及び「資本主義社会は競争社会。必ず落ちる人はでてくる」と述べ、「“お恵み”でもらっているわけではない。国民年金も国民健康保険も半分は税金(を投入)、生活保護は100%税金。元々社会保障制度なので過度に言うことはない」と、国民年金や国民健康保険なども同じように税金が投入されているのに“バッシング”が起きていない矛盾点を指摘し、「生活保護バッシング」に苦言を呈しました。

その上で「何十年も働いていない人が働けるように

なった人と、障害者施設にいる人の顔は違う」と述べ、「(働いている人の顔が)生き生きしている」と、働くことと夢を持つことの大切さを訴え、「夢も何もない人に就労支援はできない」と締めくくりました。

●ハードルは高くても

その後、潮騒で「仕事隊」に出ている仲間たちからの

報告があり「行ける人は(仕事に)行ったほうがいいと思う」「仕事をしているとメシがうまい。よく寝れる。うつにならずプラス思考になれる」「向き不向きがあればスタッフや班長に言ってほしい。仕事の意欲がある人はどんどん参加を」と訴えました。栗原施設長は「今日の講演内容を今後プログラムに取り入れ、生かしていきたい」と述べ、「依存症のひとつに『行動の不活発』がある。これを改善するためにも就労支援を通して体力づくりにもつなげたい。『夢の実現』も段階があると思うが、ハードルは高くても『生活保護受給者から納税者へ』の夢に近づいていけるよう下支えしたい」と述べました。

講演の後、武澤氏は「就労先でスリップした人についての対応は？」の質問に対し、「大体は(関係先に)謝りに行く。迷惑を掛けなくて(アルコールを)飲むことはほとんど無い。普通に当たり前のことをすればいい。原因の無いスリップは無い。必ずスリップの原因があるので、原因になる問題の一つずつ粘り強く潰していくことが大事」と助言してくれました。(勝)



農園主が青パパイヤの定植法を直伝

＝土づくり、水管理、除草作業についても熱心にアドバイス＝

潮騒JTCが、薬物やアルコール、ギャンブル等アディクト（依存症者）が社会復帰できるようファイザー社からの助成金を得て職業訓練と就労支援をテーマに取り組む「潮騒ファイザー農業プロジェクト」―。今年の主要事業である青パパイヤ栽培が本格的に始動するのを前に4月15日、今後何かと指導を受ける予定の那珂市菅谷にある「やぎぬま農園『那珂パパイヤ』」を訪ね、農園主の柳沼正一さん（60）からパパイヤ畑で苗の植え方などを教わりました。

柳沼さんは九州で青パパイヤの露地栽培を研究し、縁あって那珂市で研究開発に励み「北限のパパイヤ栽培」に成功しました。パパイヤといえば南国フルーツのイメージを抱きますが、とて

も栄養価が高く沖縄や東南アジアでは未完熟のものが野菜として数多く消費されています。苦労の末に寒冷地でも品質の良い苗を植え、微生物などの力を借りて良質な土づくりと有機資材を大量投入して栽培することで、露地栽培でも有機農法によって優れた青パパイヤが収穫できることを実証。

この独自開発の青パパイヤを柳沼さんは「那珂パパイヤ」と名付けて統一ブランド化し、挑戦する人々には栽培方法などノウハウを公開して普及させ、茨城県の新しい特産品を目指しています。健康長寿野菜なので全国にも販路を広げてパパイヤの食文化を育てたいと構想しています。農業団体やメディアなどに注目され、既に約150人が栽培の希望を伝え、販路も県内や隣県などのスーパー4社が触手を伸ばしており、約100店舗に拡大する予定だそうです。

これまでは1割の栽培でしたが、3年目の今年は増産を目指す計画。春から秋にかけてのわずか6カ月の短期

勝負ですが、初心者でも柳沼さんの指導に従って土づくりなどをきちんとやれば、それなりの収穫量を得られるといえます。潮騒JTCでは、いち早く那珂パパイヤに



やぎぬま農園「那珂パパイヤ」の柳沼さん（右手前）の指導を受ける一行

注目した農業プロジェクト指導者である根崎彰さんの勧めで、本年の中核事業に位置付け、ジャガイモ収穫後の青塚農場を拠点に5月には栽培を開始します。

この日の現地見学は午前中の約1時間ほどでしたが、潮騒農業隊メンバーら約10人が参加、農園に隣接して設置されている直売所で販売

されている漬け物やドレッシング、生姜シロップなど加工品の多さに驚きました。漬け物を試食して一同ビックリ、「野菜の常識を覆すインパクトがある。これならいける」とカルチャーショックを受けていました。（み）

◆「那珂パパイヤ」を見学しました◆＝幹が太くなって実が付いていた昨年夏の見学時とは違い、植えたばかりのパパイヤ苗にポットを被せている状態でした。柳沼さんの指導で苗の植え方を教えてもらいました。植える場所にたっぷりと水をやり、苗にも同じようにやり、あまり押さえずに優しく埋めて、土面と同じ高さに出づらを合わせるほか、最初の水やりから1～2カ月は水をやらないなど、自分が考えていたのとは違って予想外のやり方で、丁寧に教えてもらいました。柳沼さんによれば、植え方も大事ですが、一番大事なのは土壌づくり。普通の野菜、肥料と違い、かなり多くの肥料と菌が入っていることなど、現場での説明でより実感しました。いよいよ本格的にパパイヤ作りが始動します。期待と不安が入り混じっていますが、今まで潮騒でやってきた経験が自分を後押ししてくれているような気がして、「仲間たちと一緒にぜひ成功させたい」と、決意を新たにしました。（ヒトシ）



「全国ダルク次世代スタッフ研修会」に参加して



皆さんこんにちは。潮騒JTCスタッフのマコトです。4月10・11の両日に開かれた「全国ダルク次世代スタッフ研修会」に参加させていただきました。大半の仲間はフォーラムやセミナーなどで会った事があったり、見た事があったりと、行く前はとても緊張していましたが、会場のホテルに着いてホットしました。今回は、近藤さんのお話で始まり、法務省の方の講話、「ハームリダクションの理念」や「WHOSの概要」、2日目は各地ダルクスタッフとのハートフルな分かち合いでした。

法務省の方の「刑の一部執行猶予」はなんとなくは聞いていましたが、詳しく聞けてよかったです。ハームリダクションの理念についてはとても勉強になりました。薬をやめる人の人権もあるが、薬を使う人の人権もある、という事でした。決して使っていないと言う事ではないが、もし使ってしまったら感染を広げない為に、きれいな注射器などを使うようにと自販機で売っているとの事で、日本と外国の薬物へのとらえ方が全く違う事にびっくりしました。日本では薬物を使うことは自己責任(犯罪)なのに、外国では薬物を使うことは国家の責任(公衆衛生)として対応しています。「薬物は犯罪、だから刑務所へ」という流れが現実にはそぐわなくなっているのに、相変わらず刑務所送りです。もし日本もハームリダクションの理念に沿って対応が変わるなら、もっと依存症で悩

んでる人達が回復できるのではないかと、思いながら聞いていました。初日の夜にはダルク草創期からの支援者も参加して懇親会が開かれ、大いに盛り上がりました。

プログラム2日目は各施設の悩みや個人の悩みの分かち合いということで、自分は潮騒JTCが自立準備ホームとしての認可を受けていることから、仮釈放の方が施設に入寮してプログラムに取り組むものの満期を迎えると出て行ってしまうことや、元ヤクザだった人達がバタバタと入寮してくるとマイナスの力学が働きやすくなり対応に困る場面が多くなったこと、入寮者の世話に追われて自分のケアができにくいボランティアスタッフが潰れてしまうことがある一などと、自分自身が回復途上にあるのは承知の上で、偉そうですが回復のルールに引っ張ることの難しさを話させていただきました。

時間の都合でこれについての話のシェアはできませんでしたが、自分がスタッフとして関わっていて正直、怖いと思うことがあると、あの場で自分の弱さを話せたことはとても良かったと思います。近藤さんが言っていたように、「今うまくいなくても、厄介だと思って、今いる施設が肌に合わなくても、それはタイミングが早いだけで“人は絶対変わることができる””という話を聞けて救われました。考えてみると潮騒JTCでも、散々かき回してスリップを繰り返した仲間達が、今ではスタッフ研修として頑張ってくれています。「人は絶対変わることができる」という言葉を自分の教訓にして、投げ出たくなること、うっとうしいこと、怒ること、毎日バタバタして問題だらけですが、しっかり回復の道を歩んで行きたいと感じました。今回、次世代スタッフ研修会に参加できたことに、とても感謝しています。ぜひ10月の研修会にも参加したいと思いました。(マコト)



マコトさん、近藤恒夫さんとツーショットに＝浅草ビューホテルで

お知らせ&お断り

今年の潮騒ファイザープロジェクト&公開フォーラムは11月17日(日)に地元、鹿嶋市の鹿嶋勤労文化会館で開きます。今話題の元ヤクザの牧師、進藤龍也さんを講師に迎えます。今後、詳しくお伝えします。また、今号に入る予定だった「栃木ダルク20周年フォーラム」と「潮騒アディクションセミナー」概要は次号に掲載します。

近藤恒夫氏インタビュー「薬物依存と回復の権利」VOL12

日本はすっかり“お任せ民主主義”がはびこって、イデオロギーのない共産主義国家になった

—改めて人権の問題と絡めて伺います。例えば中国だと薬物事犯に対しては簡易裁判で極刑に処しますよね。アヘン戦争の苦い歴史を経ているからか、容赦なく死刑にしてしまうようですが…。

近藤 でも金持ちは死刑になってないようだ。死刑になるのはまず貧乏人、臓器も取られてさ、ヤク中は貧乏人ばかりだから、まず死刑だろうな。でも、金持ちは死刑にならない。中国では地獄の沙汰も金次第、すべて金が物を言う。貧乏人を処刑するのに迷いはないからね。ましてヤク中ならなおさら。血液型から何から調べてから、誰を処刑するか決めてるらしい。だから拒絶反応はないんだ。中国はヤク中に対する死刑執行が一番うまいらしいよ。

—それで社会主義を掲げているんだから、おかしい話ですね。成熟した市民社会や西欧の民主主義社会の人権意識なんて通用しないですかね。

近藤 社会主義であれ共産主義であれ、物事は金で決まる。いくら理想を掲げたって所詮、人間の欲なんて簡単には超えられない。官僚国家で共産党幹部の汚職や不正行為がまかり通っている。社会主義じゃなく拝金主義だよ。そんな社会環境じゃ庶民の人権意識なんて育たない。そう考えると、日本が社会主義に一番近い国なんじゃないか。だって、この国では困ったことは全部、国家がやってくれる。みんな地域で困ったことやトラブルがあれば、躊躇なく行政や司法に解決を求める。それが「国民の権利だ!」とばかりにね。確かに弁護士とか警察は頼りがいがあるよ。それに苦手だけど政治家もね。

いつの頃からか、この国では地域で何か問題があったら、まず自分たちで解決しようという姿勢がなくなった。今では弁護士や警察、公務員にみんなすっかり依存している。まるで一億総依存症の国家。アル中やヤク中を笑えないよ。昔のように自分たちが地域で解決しようというエネルギーがどこにもない。高齢化で年寄りが多くなったからかな?

●「日本ほど国家幻想が強い国はない」

近藤 とにかく自分たちでなんとかしていこうという機運がなくなった。さすがに財政危機に陥っ

たギリシャのように国民全体の20%が公務員だってことはないけど、日本も公務員は5%弱になっている。しかも民間企業に比べ給与や年金等の人件費は高い。一方で国民の間に「税金払ってんだから、俺達のために働きゃいいんだよ」という感覚が強い。でも、公務員任せにしてきた結果が、今日の日本の行き詰まりの一つの要因じゃないのかな。すっかり“お任せ民主主義”“代行民主主義”の国になったこと考えると、日本はイデオロギーはないけど、中国なんかよりも共産主義の国家だよ。

国家というのは「国の家」ということだろう。日本は単一民族だから、国全体が家族みたいなものかもしれないが、この言葉に疑問を感じないのは日本人ぐらいだよ。「国の家」だから、困ったら最後は国家がなんとかしてくれる。国が面倒見てくれると思っている。そう言えるのは幸せなことなんだろうな。だって、侵略と戦争の歴史を繰り返してきた外国なら、国民の間に「国の家」なんて意識はほとんどない。国家なんて最後は信じられない。お金(通貨)だってそう。いざという時に役に立つのは交換価値が高く、持ち運べる金や宝石だっていう感覚が身に染みている。日本ほど国家幻想が強い国はない。

—見方を変えたら、日本が宗教を持たない国だってことも大きいんじゃないんですか。宗教がない分、国家が信じられる。外国ならキリスト教のように、国家よりもまず自分と神との契約関係がある。そこには理屈を超えた博愛があり、自助、共助、公助のボランティア精神が根付いている。日本人はこのところが弱いような気がします。

近藤 そうかもしれないが、「贈与」という考え方もあるよ。困っていれば、みんなで分け与えるという発想。昔は日本だって「お互い様」の社会だった。みんな貧しかったから助け合わないと生活が成り立たなかった。だから、自分たちのことは自分たちでやろう、という気概があった。でも今は地域でできることも全部、警察とか公務員任せ。僕は、それはまずいと考えている。みんなにダルクの当事者主義を見習ってほしいんだ。(次号に続く)

全国受刑者の皆さんからの手紙～潮騒通信「とっこい生きてます！」を読んで**■仮釈が欲しいのではなく、満期出所でも構わない**

(身元引受の順守事項等) 潮騒アンケートに回答しました。約束事の順守については、私にできるか不安はありますが、なぜ施設に回復を依頼したのか、その原点を振り返れば問題はありません。自分に今必要なのは回復プログラムに取り組んでいる仲間達だと信じています。別に仮釈が欲しいから依頼した訳ではありません。私は満期出所でも一向に構いません。もちろん施設長が受け入れてくれたらばですが…。やはりジョブという民間施設に入寮するには、最低限、刑務所の生活で順守事項を守らなければならないと考えたからです。無事故で過ごす、これが大切なことだと。この心構えがジョブに入寮する時に役に立つと思うからです。初心忘れるべからず、そして「隠忍自重(いんにんじちょう)」—この気持ちが大事だとアンケートに記入しました。(秋田県 I・K)

■恥も外聞も捨てたら虚勢に振り回されなくなった

矯正教育の一環で、暴力団離脱指導を既に何度か受講しました。施設長の話に「任侠の世界は嫌いではなかった」とありましたが、やはり私にもそうした心はあります。ただ私は覚せい剤の虜になったこの20年は、覚せい剤を手にするため、ばらまくためだけに暴力団という立場を利用する存在になり下がっていたのです。こんな私にヤクザ稼業を語れるはずもなく、当初のグループワークでは会話にも困る状態でしたが、ある時から恥も外聞も捨てヤクザという名義だけの私であって、その実は「こんないい加減なやつです」とグループ内で話してから、つまらぬ虚勢に振り回されることがなくなり、少しずつグループ内での発言も増えてきました。少々億劫で苦手だったグループワークも、現在では貴重な話を聞ける場所になり、楽しみにしています。一つ何かを得るためには一つ何かを捨てる—これもまた新しい生き方に必要な事と思い至りました。(北海道 K・T)

■ダルクの仲間達の覚せい剤教育も必ず受けます

…私はまだこの刑務所に来ただけなので、施設長のお言葉に甘えさせて頂き、のんびり、でも真剣に回復の事を考えさせて頂きます。施設長の言葉に甘えるだけでなく、Tダルクの仲間達の覚せい剤教育も必ず受けます。今は何事にも頑張りますとしか言いようがありませんが、

これからも一生懸命に事故なく務めますので、応援の程を宜しくお願い致します。それではまたお手紙を書きます。(北海道 O・K)

■自己体験談を漫画にしたので友人を通じ送りたい

私はまだまだ落ち着けずに所内生活に励んでいます。この度、日本ダルクの本を読んだ中にストリート漫画で分かり易く、薬物依存者のことを読みました。そういえば小生も昨年、描き綴った自己体験談を漫画にしておりました。他の人達への助言やメッセージになればと、一応友人を通じて送らせてもらおうと思っています。違った方面で、また薬物の見方も変わればと思います。皆さまも一日も早く薬物依存か脱出されることを念じております。(鳥取県 M・T)

■今回の受刑をきっかけに何とか立ち直りたい

潮騒通信が届きました。同じ悩みを持ち苦しんでいる仲間達のこと書かれているので、自分自身も前向きになれる。自分も今年に入り、覚せい剤教育なるものが始まり、薬物依存離脱指導用教材「リカバリー・ストーリー」をやっています。近藤恒夫さんの講義やダルクの人達が自分たちの体験などを話すミーティングというものをビデオで拝見しました。今回の受刑をきっかけに何とか立ち直りたいものです。自分の父はもはや完治できない病魔に次々に冒され、心配で不安な日々です。一日も早く社会復帰をしたい気持ちでいっぱいです。

(広島県 K・Y)

■仮釈狙いでも本人が変わればそれで素晴らしい

栗原さんからの手紙によると、どうやら「反施設」行為に出た人達がいたみたいですが、とても悲しいことです。確かに「仮釈」が欲しくてそちらに行く人も中にはいるかもしれません。でも、それはそれで、そちらに行っているいろいろなミーティングに出るうちに、何かしら気づいてその本人が変われば、それはそれで素晴らしい事だと思うし、施設にいる間は最低でもそのルールに従った生活をするべきだと思いました。どうか、このような事に負けないでください。潮騒JTCに入寮を希望する人の心の支えになっているので、その人たちのためにも頑張って施設を続けてください。(福島県 O・H)



～ 3 月句会作品から～

しおさい俳壇

～選者＝桐本石見先生～

雨つゆに美しく咲く梅の花

(チヨウキチ)

俳句では「露」は秋の季語になるので「雨つゆ」にしましたが、これでも雨に濡れて少し艶のある梅の花を彷彿します。ことに豊後梅は花が少し淡紅色なので美しい。梅は桜ほど豪華ではありませんが、凜として華麗です。

吹く風にあの人思ふ梅の花

(信行)

花には花言葉やその花から想像する人の顔がありますが、大方は女性を想う花です。梅の花にはどんな人か、人夫々ながら謙虚な女性を想う。快い風に昔の人を懐かしく思う少しの艶治を秘めた句です。

故郷や今も懐かし梅の花

(コバ)

古来、故郷は遠きにありて思うものと云われますが、人夫々生誕の地が故郷だと思えます。その故郷にはそれぞれに懐かしい記憶の花があります。有名でなくもその人には記念の花です。作者の故郷は何処だろうか。

今朝庭の匂ひかぐわし梅の花

(トコ)

原句は少し変えましたが、これで朝の日和の庭に咲いた梅に思いを寄せ、いよいよ春を思う句になります。俳句は短形詩なので出来るだけ同意語は使わず思いや感動を詠むのが良いです。

梅の花待つを心に今日の空

(カート)

原句を少し変えましたが、これで寒い冬も終り梅の花の待ち遠しい思いに今日の晴れた空を眺める実感の句になります。

三月や夜明けの浜の波頭

(みみ)

三月は春とは言えまだ少し寒い感じの月ですが、今年の様に桜が満開の月でもあります。その春の夜明けに浜に散歩にでも出かけたのか、沖に日が昇ると波頭を染めて美しい。初日の出も荘厳だが、春の日の出も又美しい実感の句です。

寒暖に季の移り来梅の花

(カツミ)

春の訪れは三寒四温、寒くなり暖かくなりして春になる。その中に梅も他の花も咲き、桜が咲いて春本番と云える。人も耕しや卒業、入学などの行事を四季に添い行こう。季語を詠む俳句の佳さとも言えましょう。

我が回復記

どっこい私も生きてます！～N01 (サカ)



初めまして、これまでも潮騒通信に登場しているサカです。本来ならまだまだ回復記なんてかける身分ではないのですが、ご指名ですので恥を忍んで書かせて頂きます。約 10 年前から刑務所に出たり入ったりするなか、ダルクについては名前だけは聞いておりましたが、金儲け主義でよい噂を聞かなかったことから（実際は違いました！）、興味を持てないどころか「とんでもない所」とさえ思っていました。そんな私が何故つながったのかというと、度重なる受刑生活で何度か覚醒剤をやめたいと思いつつも、自分の力ではどうしてもない現実の中にあり、裁判では娘の死を理由に刑をまけてもらってきた汚い男でしたが、5 度目の受刑前に「もう駄目だ！」と思い、裁判官に「やめられないので長い刑を少しでも長く務めさせてください」とお願いしました。もちろん当時は、刑期を短くしてもらおう為の作戦で、情けない自分でしたが、たまたま私の弁護士が「その言葉をどこかで聞いたことがある」「それは確か近藤恒夫先生が言った言葉だ」という話から、ダルクの本を差し入れてくれたのでした。読めば確かに似たようなことをおっしゃってることに気づき、すごく興味を持ちました。近藤先生は、私とは違い心からそう感じたのだと思いますが、ひょっとしたら近藤先生のように生きられるのではと思い、書物を読みあさったところすごく興味を持ったのです。そこで「地元に戻るより北海道のダルクへ行くのが一番ではないか」という弁護士の勧めで北海道ダルクへ行く決心をしました。（次号へ続く）

我が明日に望みふくらむ梅の花

(長吉)

原句は少し変えましたが、これで寒さの中に咲く梅の花を見て自分にも希望の膨らむ実感の句になります。「勇氣こそ地の塩なれや梅真白」草田男の有名な句があり、白梅を見ると勇気を授かる思いにもなります。

しおさい俳壇・秀逸句コーナー

風流に縁遠くして梅花(うめ)に泣く

(ボチ)

風流は風雅とも云い、俗世から離れた境地や景色花などを愛でて云いますが、俳句などを詠むのその一つ。その風流に普段は縁がないけれども、早春に凜とした梅を見ると泣くほど感激する。または梅の花に泣くほどの人生の思い出があるのか、いずれにしても俳諧の切々とした句です。

梅の花今年は誰と眺むかな

(トム)

花見と云えば仲間や友人家族、好きな人と行くのが良いのですが、特別に決めた人が居るわけでもないのは寂しい。さて今年は誰と行くのか、それでも梅見には行つて見たい、少しの哀れを込めた俳諧の句です。

梅の花ほのかに匂ふ城址かな

(カッチン)

城址には桜が多いですが無論梅の花もある。この城址はどこだろうか、この近くでは小見川城址が有名。桜は日本人好みの武士の散り際を愛しての花だが、梅も寒さの中の潔さは同じ。小諸城址などには似合うかも知れない、ロマンの句です。

雪洞に人の寄り来る梅の花

(ユタカ)

花見には梅や桜があり、桜は夜桜見物などとも云いますが、梅の方は近年になり同じ様に雪洞や提燈の明りに夜も見物する様になった。その雪洞の灯に人が寄り梅の花を賞でる。私にも「雪洞に一本一木の梅見かな」がありますが、梅は一本ずつ見て花の色咲き方や木の形を賞でるべきと思います。美しい句です。

続・秀逸句コーナー

おめでとう！
今月の特選句

祖父植えし梅の老幹咲きにけり

(オノ)

私の故郷にも柚子や梨、杏、梅などの古木があり花や実を着けて懐かしいが、祖父の植えた梅も老木になりながら春には花をつける。春に帰郷されたのか、その花を見ながら祖父を偲ぶ少しの哀れを込めた懐かしい句です。

当番日犬と楽しむ梅見かな

(ジュン)

何の当番か、或いは留守番か、今日は日和も良く特別に忙しい仕事も無いので、外で犬と梅の花を賞でる、犬には花のことは分からないにしても、懐いて可愛いし和やかで静かな一時でもある。実感の微笑ましい句です。

千波湖の道々映る梅の花

(ヒロ)

借楽園は一八四一年、徳川斉昭により「借楽」皆で楽しむの意を込めて開園され、岡山県の後楽園、石川県の兼六園と並び日本三名園の一つ。その千波湖を漫(そぞ)ろう、湖面に映る梅の花が美しく千波湖の漣(さざなみ)も想う句です。

凍てつきし心ほどくや梅の花

(よしはる)

「梅一輪一輪ほどの暖かさ」嵐雪の有名な句がありますが、冬の寒さの終わりに一輪の梅の花を見ると心も安らぎほどこける。人の人生、生活は様々で楽しいことばかりではない。四季の花に慰むのもよい。一抹の哀れを込めた句。



Information

行事予定(4月中旬～5月初旬)

- 4月10日 全国ダルク次世代スタッフ研修会
14日 秋元病院メッセージ(20日も)
15日 新宿とまりぎアルコール問題相談業務
22日 潮騒誕生会
24日 潮騒俳句会(しおさい俳壇)
28日 潮騒家族会
29日 潮騒ボーリング大会
5月3日 ファイザープロジェクト第3回就労支援実践講座
4日 ステップセミナー
6日 潮騒カラオケ大会



献金を頂いた方(4月20日現在)

- ▼小岩井商事(株) 小岩井 重光様
▼プー横町保育園 山下 圭子様
▼岡本 伸次郎様 ▼富井 健夫様
▼内堀 高良様

献品を頂いた方(4月20日現在)

- ▼勝間 春江様 ▼郡司 寿美江様
▼堀内 誠様 ▼栗原 稔様

☆そのほか匿名の皆様からも献品・献金を
いただきました。ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は
全員の方に同封させて頂いております。
どうぞご理解の程をお願いします。

【施設からのお願い】潮騒JTCでは使わなくなっ
た中古パソコン、中古の車いす等の献品を求めてい
ます。施設での回復活動や日々の生活に必要なので、
ご協力をお願いします。

編集・発行

特定非営利活動法人

潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)

〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱34号

〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台210-10

TEL/0299-77-9099 FAX/0299-77-9091

潮騒リカバリーホーム(中施設)

〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱56号

〒311-2213 茨城県鹿嶋市中2773-16

TEL/0299-69-9099 FAX/0299-69-9098

潮騒スリークオーターハウス鉾田

〒311-2113 茨城県鉾田市上幡木1113-39

E-MAIL k.s-darc@orange.plala.or.jp

ホームページ <http://shiosaidarc.com/>

編集後記

梅も桜も水仙も一緒に花に開花した今
年のおかしな春が足早に過ぎゆく。ファイザー農業プロ
ジェクトも本番となり、田植え、青パパイヤ&サツマイ
モの定植、さらにはシイタケ圃場の除染…と、超忙しい
時期となる。喧騒な世の中だけに、自然と向き合いなが
らゆっくりと鳥や虫たちの鳴き声に耳を傾けたい。そこ
には生命の躍動があるから。人間だって自然の一部なの
に、つい忘れて傲慢になってしまう。反省! (市)

今月のスタッフ写真



栗原施設長夫妻と近藤恒夫さん＝ダルク次世代スタッフ研修懇親会

発行所 郵便番号一五七―〇〇七三
東京都世田谷区砧六―二六―二一
特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会
(会費に含む) 定価一〇〇円

今月も多くの方から献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。